

～実際に働いて感じたこと 先輩職員の声～



治安秩序を守っている 実感が持てる職場

総務部人事課主任

【令和5年度選考採用】

○新しいことへの挑戦

学生の頃から空港でのお仕事に憧れていました。また、前職では海上自衛官として国の安全と領海を守ることに使命感を持って取り組んでいました。これらの想いをそのままに新しいことに挑戦したいと考え「安全・安心な社会の実現」のために水際取締りに貢献できればと、選考採用試験に応募しました。

私は、最初の配属先である羽田税関支署の旅具通関部門で約1年間と、今年の7月に配属された本関の人事課の2か所での勤務経験しかありません。まだまだわからないことばかりですが、職場の上司や同僚はいつも親切に業務について教えてくれます。どちらも職場の雰囲気、ワークライフバランスの面でもとても働きやすい環境だと思います。

旅具通関部門では海外からの旅客の荷物検査、納税の手続き、航空会社への対応などの業務を行っていました。幅広い知識と経験が必要な業務を20代の係員が毅然と対応している姿に圧倒されました。配属されてすぐの私はもちろん経験も知識も十分でない状態ではありましたが、先輩職員が助けてくれるのでとても心強かったです。

そんな私でも初めて麻薬密輸を阻止することができたときは、少し震えてしまい、今でも心に残っています。税関の職務を全うするということは「いろんな人の人生を変えること」だと実感しました。これによって国民の手に薬物が渡ることを防げたと思うと税関の職務は重責であることが改めてわかり、さらに気が引き締められました。

○税関職員としての見聞を広める

前職では災害派遣の際に「ありがとう」と言ってもらえる仕事をしていましたが、税関職員として空港での検査をしているときに感謝されることは少ないです。しかし、国内の治安秩序を守ることによって貢献できている実感を持てる仕事であり、やりがいを感じています。

税関の業務は幅広く、私はまだほんの一部しか知りません。人事での勤務を通じて見聞を広めていきたいと思っています。現場から離れましたが、現場の職員がより一層活躍できるように尽力したいと思っています。



お互いに支え合いながら 仕事に取り組める職場

総務部システム企画調整室調査官

【令和4年度選考採用】

○システム業務の経験を活かして

私は前職で鉄道業に従事し、駅業務や社内システムの運用を担当していました。日々、訪日外国人のお客様と接する中で、言葉や文化の違いを越えて関わることの面白さと同時に、「訪日外国人がどのような手続きを経て日本に入国しているか」という素朴な疑問が湧き上がりました。そこから入国に関わる業務への関心が高まり、更に税関という存在に目が向くようになりました。

また、システム業務の経験を活かしながら、日本の安全・安心な社会を実現するという社会的な意義の大きい仕事に携われることにも魅力を感じ、民間からの転職という形で思い切って新たな一步を踏み出しました。

現在、所属しているシステム部門では、多くの部門と密接に関わっており、問い合わせや相談を通じて多様な業務の流れや目的を知ることができます。単なる裏方にとどまらず、現場のニーズや課題を吸い上げ、それに応えるかたちで業務改善に貢献できる点に、大きなやりがいを感じています。

また、職場の雰囲気は非常に温かく、相談や情報共有がしやすい環境です。経験や年次に関係なく、お互いに支え合いながら仕事に取り組む文化が根づいており、初めての業務や不慣れな分野でも、周囲のサポートがあることで安心して挑戦できます。民間出身である私にとって、こうした協力的な職場環境は非常に心強く、税関という組織の懐の深さを感じる毎日です。

○自らの専門性をさらに磨いて

税関には充実した研修制度があり、職務に必要な知識やスキルを段階的に身につける環境が整っています。民間企業では即戦力が求められる場面が多かったため、自分のペースでじっくりと学ぶことができる今の環境は非常にありがたく感じています。

今後は、前職で培ったシステム運用の経験を活かしつつ、税関の業務全体に対する理解をさらに深め、より実務に即した提案やサポートができるようになることが目標です。そして税関の三つの使命である「適正かつ公平な関税等の徴収」「安全・安心な社会の実現」「貿易の円滑化」に少しでも貢献できるよう、自らの専門性を磨きながら職務に取り組んでいきたいと考えています。



仕事とプライベートの 両立がしやすい職場

業務部統括分析官
(分析第2部門担当)付分析官

【平成30年度選考採用】

○円滑な貿易から安全・安心な社会の実現へ

私は、税関に入関する前は食品検査機関で約17年間、食品検査の受付、試験、試験品のサンプリング業務を担当してきました。輸入食品に関して違反品の国内流通を未然に防ぐことや、円滑な輸入業務に貢献しているという自負を持って仕事をしていました。そうした中で、以前から関心を持っていた税関職員の募集を知り、食品のみならず輸出入される幅広い貨物の通関審査や分析業務に携わることで、不正薬物等の国内流入を水際で取り締まるという社会的使命に貢献できると考え、税関を志望しました。

私は入関後、本関の業務部特別通関部門、羽田税関支署の特別通関部門及び旅具通関部門を経て、現在は本関の業務部分析部門に勤務しています。所属した部署では選考採用職員であることを理解していただき、分からないことがあれば上司や同僚の方々が丁寧に教えてくださるので、職場の雰囲気は良く、安心して働くことができます。また、年次休暇や育休も取得しやすく、仕事とプライベートの両立がしやすい職場だと感じています。

○より一層の知識と技術習得へ

今後は、不正薬物の分析手法に関する基本的な知識と技術を着実に習得し、正確かつ迅速に分析結果を提供できるよう努めてまいります。また、日々進化する新たな不正薬物にも対応できるよう、最新の情報や技術の習得にも積極的に取り組み、分析業務の精度向上に貢献していきたいと考えています。